

### 第3回 新幹線のバリアフリー ソフト・ハード対策検討WG（合同開催） 結果概要

日時： 令和2年4月24日（金） 14:00～16:00  
場所： 中央合同庁舎2号館低層棟国土交通省第1会議室（ウェブ会議）

#### 議事（1）車椅子用フリースペース（仮称）の考え方等について

（鉄道事業者）

- ・東海道新幹線において昨年12月末から今年1月末にかけて車椅子使用者の利用実態を調査したところ、車椅子を折りたたんで一般座席を利用された方が約5割強程度、多目的室を利用された方が約3割強程度、残り（15%程度）が現行の車椅子用座席を利用されていた。また、介助者等を帯同させている方が全体の約7割程度、車椅子用座席を利用された方のうち移乗される方は5割程度であった。実態を踏まえて移乗者用や介助者用の座席が一定数必要と考える。
- ・車椅子スペース数をどのように設定するのが悩ましいところであるが、東海道新幹線のご利用は、ビジネスが約7割程度、観光が約3割程度に分類できるので、それぞれ考えてみた。ビジネス目的に対しては障害者の法定雇用率や障害者における車椅子使用者の割合等を加味してはということで2席、観光目的についてはこのような指標がないため、障害者団体の意見でもある、総座席数に応じた比率0.5%～1.0%を用いて2～4席、あわせて4席～6席程度と考えた。これに車椅子を折りたたんで一般座席をご利用している等の実態を考慮すると車椅子スペースの数は2～3席であるが、グループでの利用を考慮して4席とこれに多目的室を加えることで対応できると考える。

（鉄道事業者）

- ・（山形、秋田新幹線などの）新在直通車両については、在来線と同様の規格となるため、要件も含めてどのような形でフリースペースを整備していくか別途検討が必要であり、まずは一般的な新幹線車両の検討を進めるべきと考える。

（障害者団体）

- ・車椅子スペース数について、列車についての国際的な基準はないが、国際パラリンピック委員会によるアクセシビリティガイドラインにおける大会会場を参考に0.5%以上として欲しい。N700では7席（11号車6席＋多目的室1席）、E5系では4席となる。
- ・車椅子用フリースペースについては、移乗する方の隣に介助者等が座れるよう現行の3列シート部は2席残すレイアウトが良い。
- ・今後、観光地やホテルがバリアフリー化されれば、車椅子で観光に行く人は確実に増えてくる。一方で鉄道車両は20年間は使われるようなので、20年後をイメージして検討して欲しい。
- ・車椅子スペースのサイズについては、長さ1300mm×幅750mmを基本とするが、車椅子使用者はカバン等をぶら下げているため、できる限り大きく確保してもらいたい。
- ・新車だけでなく既存車についても同様の車椅子用フリースペースを整備して欲しい。将来的に新たに導入される車両については、自由席、指定席、グリーン車それぞれに整備して欲しい。

（国土交通省）

- ・利用目的をビジネスと観光に分けて必要数を算出いただいたようだが、例えば高齢者で車椅子を使う人、怪我をして一時的に車椅子を使う人は含まれているのか。また、障害者団体から指摘のあった将来の環境の変化についてはどのように反映しているのか。

（鉄道事業者）

- ・高齢の方のご利用は、ビジネスよりも観光目的だと考えており、0.5～1.0%に含まれていると考えて

いる。

- ・将来性についても、観光系は席数に対して0.5～1.0%のなかで、基本的に将来のことも見越した数字となっている。
- ・また、この年末年始の指定席が満席で自由席はお立ちのお客様がいた混雑列車で調べたところ、車椅子用座席と多目的室のいずれかで車椅子でのご利用があった列車は全体の1/3であり、2/3は車椅子使用者のご利用はない。このご利用が将来10倍に増えても、車椅子スペース4席と多目的室で対応可能と考えている。また、実際には、それ以外の一般席で車椅子を折りたたんでご利用いただいている方が半数程度いるため、十分な必要数が確保されているのでは、と考えている。

(障害者団体)

- ・年末年始は混雑するのが分かっているのに、意図的に使わない車椅子使用者が多い。

(国土交通省)

- ・11号車以外の一般座席を利用する車椅子使用者が約半数とのことだが、車椅子用フリースペースが整備されると、これまで一般座席を利用していた車椅子使用者も車椅子用フリースペースに集まってくるのではないかと。

(鉄道事業者)

- ・確かに、今の車椅子用座席が予約しづらいのはあるかもしれないが、車椅子用座席が当日に空いていても、11号車以外の一般席を当日予約される車椅子使用者もいらっしゃるので、全員が車椅子用フリースペースに集まるわけではないと考えている。仮に一般席利用の方全員が車椅子用フリースペースに集まっても大丈夫と考えている。

(障害者団体)

- ・一般座席を利用する車椅子使用者は、恐らく予約が煩雑でなかなか簡単に予約できないので、パッと乗る時は一般座席に乗るのではないかと。販売の仕組みがよくなると11号車に集まってくるだろう。11号車以外は車椅子をデッキなどに置くしかなく、トイレも使えない肩身の狭い思いをしている。

(障害者団体)

- ・一般席を使う車椅子使用者は、介助者がいる高齢者ではないかと。
- ・11号車の6席も妥協のなかでの提案であることを理解してもらいたい。

(鉄道事業者)

- ・車椅子使用者の席を少しでも拡充したいという思いと、一方で実際に多くの方が満席でお立ちになっている状況を見ているなかで悩ましいところであるが、引き続き議論を深めさせていただきたい。

(国土交通省)

- ・12月の検討会でも「卵が先か鶏が先か」との議論があったが、10年20年先の環境変化も考慮して検討していく必要がある。次回WGでは車椅子スペース数を検討するための利用実態等のデータについて、鉄道事業者側から提供して頂きたい。

(障害者団体)

- ・(鉄道事業者の説明で、車椅子使用者は1日100人程度との説明があったが)10年前の車椅子使用者のデータがあれば教えて欲しい。

(鉄道事業者)

- ・資料については検討したい。
- ・折りたたんだ車椅子を最後部座席後方の空きスペースに置く利用の仕方も多く、折りたたんだ車椅子の置き場も検討している。

#### 議事(2) 車椅子用フリースペース(仮称)の検証のための実証実験について

(障害者団体)

- ・実証実験では、手動や電動、ストレッチャー式車椅子といった多様な車椅子使用者を参加させて欲しい。
- ・実証実験では、相互理解を深めるため、車両設計を担当する技術者にも参加して欲しい。
- ・実証実験では、列車の進行方向により座席が反転した場合も考慮して検証して欲しい。
- ・大型の電動車椅子利用時における通路幅について、実証実験にて検証して欲しい。

(鉄道事業者)

- ・新幹線の試験車両を用いて車中で実験を行うこととなるが、具体的な計画は検討中。
- ・様々な車椅子使用者が参加することは賛成であるが、コロナ対策としての三密の状態を避けるため、行程を複数回に分ける必要があるかもしれない。
- ・フリースペースのレイアウトや車椅子スペースの数について、ある程度、案を固めてから実験により検証すべき。

(国土交通省)

- ・コロナの状況を睨みながら実施時期については調整したいが、並行して実験計画は検討する。検討にあたっては、本日の意見を参考にさせていただく。各者ともご協力をよろしくお願いいたします。

#### 議事(3) 中間とりまとめ公表後の各社の取り組みについて

(障害者団体)

- ・予約と購入がウェブ上で完結できるような形を目指して進めていただきたい。海外の利用者が日本の新幹線を現地で購入できるということはすごく利便性が高まる。

#### 議事(4) 車椅子用フリースペース(仮称)に対応した予約・販売方法について

#### 議事(5) 座席(車椅子使用者用スペース)予約と介助手配方法の改善について

(障害者団体)

- ・資料6の介助者席の販売方法を考える必要がある。車椅子席を予約後、介助者席の位置も併せて選択できるとよいと思う。
- ・資料7について、この2つの改善方針に同感。ぜひこの方向で進めていただきたい。それとともに、窓口でも迅速に予約発券ができるように検討していただきたい。
- ・資料7について、座席予約と介助手配を合わせて手配するというのも必要であり、この方向性で進めていただきたい。一方で、新幹線から在来線への乗換というところが課題と考えるが、駅の構造や駅員の体制によって違うので、駅側の状況を示していただいた上で一緒に考えていきたい。
- ・将来的な話かもしれないが、新幹線と在来線を乗換える場合も多いので、スムーズにウェブで手続きができるようになるとありがたい。

(鉄道事業者)

- ・利便性を高めること、手続きを早くすることをこれまで以上にしっかりやっていきたいが、新幹線の駅でも体制が絞られている場合があるので、そのような駅ほど介助が必要な方への手配に漏れがないようにしなくてはならないと考えている。
- ・資料6について、車椅子用座席をが一般席と同様にウェブ予約できるようにした場合、一般の方の予約をどうぞ遠慮いただくかの工夫が必要。
- ・列車の発車直前まで予約できるということになると、来駅してから介助同行の手配をすることになり、列車に間に合わなくなる可能性もある。スムーズにご利用いただくためには、ウェブでの受付は列車の発車何分前というような余裕を持った設定が必要ではないか。
- ・介助同行は、より安全に列車に乗っていただくためにお願いしている。利用者が介助同行不要ということであれば、どの駅でもなしにするということではなく、介助同行不要な駅は、一定の条件をつけることなども検討してはどうか。また、それらを鉄道での共通ルールとするよう、ガイドラインで規定することなども検討してはどうか。

(障害者団体)

- ・降りる駅、利用する駅がどういう状況になっているかという情報を提供してもらうのは重要。そのうえで、どういう風にするかは本人に任せるようにしてほしい。

(国土交通省)

- ・今回資料でお示した目指すべき方向性については、当事者団体の皆様もJRの皆様も同じ方向を向いていると思う。あとは、そこに到達するためにクリアすべき課題をどう考えていくかを事務局として整理していきたい。

○引き続き障害者団体の方等から意見を伺いつつ、具体的な取組について検討を行うこととなった。

以上